

会議録

会議の名称	平成24年度 第3回西東京市健康づくり推進協議会議事録
開催日時	平成24年9月14日（金曜日）午後1時15分から
開催場所	西東京市保谷保健福祉総合センター6階 講座室1
出席者	石田会長、内田副会長、永田委員、新倉委員、平田委員、池田委員、高梨委員、石井委員、松永委員、高西委員、高橋委員、田中委員、大堀委員、橋岡委員
議題	(1) 第2回議事録について (2) 西東京市健康づくり推進プラン次期計画の骨子について
会議資料の名称	西東京市健康づくり推進プラン次期計画骨子案
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>1 開会 石田会長より開催挨拶。 事務局より資料確認。傍聴人報告（0人）。</p> <p>2 議事 (1) 第2回議事録について 平成24年度第2回西東京市健康づくり推進協議会及び第1回健康づくり推進プラン策定検討委員会議事録（案）について修正、意見等の確認後、承認。</p> <p>(2) 西東京市健康づくり推進プラン次期計画の骨子について 事務局より資料説明。</p> <p>○会長： 健康都市宣言をベースに母子保健、成人保健に分けて、それぞれのプランを作成した点が前回と大きく違うところだ。健康都市宣言の5つの柱に沿って作成した「重点的取り組み（22～25ページ）」について、追加、修正、変更等の意見をいただきたい。</p> <p>健康把握</p> <p>○委員： 成人保健の「自らの健康状態をよく知り、自分自身で管理していきましょう」という表現が気になる。例えば、血圧が高くても支障がないから管理できていると捉える人がいるのではないか。</p> <p>○会長： 健康把握として「自らの健康状態をよく知り」は問題ないが、「自分で管理する」という表現</p>	

でいいのだろうか。事務局としてはどう考えているか。

○事務局：

言われて測定するという意味ではなく、自ら測定するという意識付けの意味での管理なので、誤解のない表現に変えたい。（言葉や表現についての意見は事務局で修正し、再度意見を諮る。）

○委員：

「重点的取り組み」という表現だが、「行政がやってくれる」という印象を受ける。個人が重点的に取り組むのであれば、「努力しましょう」などの表現がいいのではないか。

○会長：

言葉の表現、使い方を事務局で検討してほしい。

成人保健での健康把握の取り組みではがん検診について触れられていない。「年1回の健診を受けること」は、特定健診、職場における健診を意味している言葉だ。がん検診について入れたほうがいいのではないか。

○事務局：

正確には「健康把握」における「年1回の健診」にがん検診は入っていないが、意味合いとしては「定期的に受ける健診」としてがん検診も含んでいる。

○会長：

むしろ重点的に取り組むのであれば、がん検診の受診について別項目を立てたほうがわかりやすいのではないか。がん検診の受診率は低い。厚労省では受診率50パーセントを目標にしているが、実際は5～10パーセント程度だ。がん検診の受診率を上げるためにも、重点的取り組みにしてほしい。

○事務局：

「6 市民・地域が取り組むこと、行政が取り組むこと」の32頁にがんの項目がある。「市民自らの取り組み」として成人では「必ず年1回は性別・年齢に応じたがん検診を受け、がんの早期発見・早期治療を心がけよう」としている。同内容のものを「3 重点的取り組み」に持ってきてはどうだろうか。

○委員：

成人専門委員会で重点的にがん検診について触れたいということで32頁を作った。市民に啓発するという意味として入っている。「必ず年1回は…」という文章を重点的取り組みとして強調してほしい。

○会長：

重点的取り組みは2つあってもいいのではないか。

○事務局：

策定委員会で決めたことを推進協議会に諮っているのだから、成人の重点的取り組みを2つにするのか、取り組みの文章にがん検診を追加するかを検討してほしい。

○会長：

健診と一緒に括りにはしないで、がん検診は別枠で重点的に取り組みたいが、どうだろうか。

○委員：
健康課でもがんの受診率についてアンケートを実施すると聞いた。別項目としてもいいのではないか。

○会長：
別項目として、重点的取り組みにしていきたい。

食・栄養

○事務局：
策定委員会の委員より、成人保健の取り組みの「栄養成分を考慮して…」について、「成分」という言葉を削除したほうが、広く捉えられるのではないか、という意見があった。「栄養成分」となると、いろいろな栄養素を指すことになり、細かい話になってきてしまう。「栄養成分」、「栄養を考慮して」という言葉を聞いたときに、専門家のイメージと市民のイメージすることは理解が違うので、「栄養」としたほうがいいのではないだろうか。

○会長：
イメージが偏らないように「栄養を考慮して…」がいいだろう。
成人保健では重点的取り組みの文章は2つあり、共食とバランスについてだ。食育もこの2つについて入っている。母子では朝食としているが、どのように話し合いがなされたのか。

○委員：
母子専門委員会では「きちんと食べる」ことを大事にしたほうがいいのではないかとの意見が出ていた。「きちんと」という言葉もわかりやすい。まずは食べる習慣を家庭で築くことに焦点をあてた。

○委員：
保健所のポスターでも「早寝・早起き・朝ごはん」とある。

○委員：
成人では「欠かさず」というアイデアが出た。「きちんと」という表現はわかりやすくいい。

○委員：
話し合いの中では、作ってくれる人・用意してくれる人がいて初めて朝食が家族の中で成り立つという話が印象に残った。誰かがきちんとそれを気にかけて毎日を過ごしていくというイメージが大事なのだと思う。

○会長：
「欠かさず」というと厳しいイメージだ。子どもに生活習慣病予防の基礎をつくるにはいいことだ。

○委員：
今の説明がどこかに入っていると、よりわかりやすいと思う。

○委員：
話が戻ってしまうが、「重点的取り組み」は市民の取り組みならば、「市民の重点的取り組み」としたほうがいいのではないか。

○事務局：

今回の骨子案では健康都市宣言の5つの柱について市民が取り組むことを掲載しているが、さらに「市民を支えるための地域や行政の取り組み」がプラスで入る。この5年間で積極的に取り組み、後半の計画も推進できるようにするという意味合いもある。課題について市民が努力する取り組み、行政が支える計画がここに掲載される。

○委員：

「重点的取り組み」という言葉は行政用語だから、普通の人は使わない。これを読むのは市民だ。行政用語は使わないほうがいいだろう。

もう一点。「食・栄養に関する重点的取り組み」は食べられる人が当たり前前に食べていることに関しての文章になっているのか。6月から市内事業者に協力してもらい、歯が残っている状態を調べたが、奥歯のない人が多く、その人たちは低栄養のリスクが高い。そういうことを考えると、成人の取り組みに「奥歯で噛めるようにしましょう」と入れてもらえるといいと思う。また人口構成を見ても、今後は高齢者が増える。やはりそれを見越して取り組みを考えたほうがいいのではないか。

○会長：

「奥歯で食べるようにしよう」とは習慣のことだろうか。

委員：

当たり前と思っていること（奥歯で噛む）が、できない人がいる。噛めないから介護食になり、食事を丸飲みしていたり、必要なカロリーや栄養素を取れていない。

○会長：

策定委員会でそういう意見はなかったのか。

○委員：

成人専門委員会では歯の健康に関しての話はあったが、具体的な話についてはなかった。

○事務局：

両委員会とも、歯については、「ゆっくりよく噛んで食べるようにしよう」との意見があった。（34頁「市民自らの取り組み」）

○委員：

「よく噛んで」という文章は、歯がある人、健全な人を前提に考えられている。年齢が若くても例えば、噛み合わせが悪い人だと噛まないで丸呑みをしている。

○会長：

34頁の成人の一項目に奥歯の話も入れてはどうか。

○事務局：

言葉は事務局で考えるが、項目として入れるかどうかを検討してほしい。

○委員：

これは目標なので、「奥歯を大事にしましょう」、「噛む歯は重要です」などがいいのではないか。あくまでも目標ならば具体的にわかるような言葉を選んで入れたほうがいいと思う。

○事務局：

「6 市民・地域が取り組むこと、行政が取り組むこと」に「歯・口腔の健康（33頁）」の目標がある。その前の前文の部分で口腔ケアについて触れているので、奥歯の実態についてプラスしてはどうか。前文があり、「1市民自らの取り組み・地域の取り組み」を読み進めたときに「定期健診を受ける」、「歯の衛生習慣を身につける」ことが、奥歯の大切さに繋がっていくという表し方にしてはどうか。

○会長：

「奥歯で噛む習慣」については別項目を立てるのではなく、歯科健診に含むという意味合いで、33頁の「歯・口腔の健康」部分に付け加え、健診の大事さを啓発していく。（※奥歯を大事し、低栄養のリスクを避ける。）

○事務局：

33頁の成人の前文にあたる部分にプラスし、また検討としたい。

運動・スポーツ

※修正等、意見はなかった。

※誤字を修正する。

こころ・休養

○会長：

こころは非常に難しい部分だ。うつ病の増加、自殺死亡率が上がっている。今後もこころ・休養は大事だろう。重点的取り組みについてどうか。特に子育ての悩みや、成人では中高年のうつ病が非常に増えている。

行政の施策目標だが、社会状況の変化によっても変わる。行政だけができるということではなく、いろいろな難しい問題を含んでいると思う。

○委員：

学校でもこころに関することは難しい問題だ。「ほめる子育てをしよう」「成功体験を増やす」ということは、盛んに言われている。ほめることは原点にあり大事なことだ。

○会長：

子育ての悩みや不安は虐待の問題も入ってくるので、早めに気がついて取り組まなければならない。

成人では、うつに関してはどうか。

○委員：

うつ対策として重要なことは休養だ。漠然としている感じはあるが表現は妥当かと思う。

○会長：

一般市民としての取り組みはいいだろう。あとは行政の施策目標を事務局で検討とする。

学び・創造

○会長：

健康都市宣言にも学び・創造は入っているが、意図しているところがいまひとつわからない。非常にわかりづらい印象だ。

○事務局：

学び・創造だが、「創造」とは知的好奇心を伸ばす部分での健康づくりとして、西東京市全体

で教育計画やその他の計画でも大事にしているところだ。その視点で考えたときに、高齢者については、趣味活動や、生涯学習と表現されているのでイメージがしやすいと思う。母子では子どもが意欲的、積極的に何か行動できるようにするものとして、家族で一緒に楽しむことで感じられるつながりや楽しさが、喜びや成功体験と同じようなものとして、わかりやすく大事ではないかということでそれぞれの取り組みがでてきた。

○委員：

公民館などで保育付講座が行われており、それがきっかけで母親同士がサークルを作り、お互いを支えあうことが盛んになってきている。講座への参加がきっかけになり、子どものこころの健康にも繋がってくると思い、公民館の講座に参加しましょう、サークルに参加しましょうとした。

○事務局：

子どもの脳の発達でも、3歳までが大事なキーワードになると学識者から話があった。最もわかりやすいものが読み聞かせであることから、あえて読み聞かせを例とした。

○会長：

母子は主に乳幼児期を中心にとということ。成人保健の社会参加や趣味活動を行うことはひきこもりや閉じこもり防止を意味しているのか。趣味や社会活動を積極的にやってもらうということか。

○事務局：

それだけでなく、生きることに意欲的で前向きであるということだ。生涯学習という視点で、身近なところで社会参加の場を積極的に持てるといい。

○会長：

学び・創造というニュアンスが何となく違うのではないか。

○委員：

成人専門委員会での話し合いでは「健康づくりについて学び、正しい知識を身につけること」が大事という話し合いだった。健康都市宣言にも「身近なところから学び、創造的な生活を楽しみましょう」とあるので、社会参加や趣味活動という具体的なものではなくて、概念的な標語の方がいいのではないだろうか。（※「社会参加や趣味活動を行うことで、生きる力を育もう」が話し合いのトップに来ていてそのまま残った。）

○会長：

ニュアンスとして「学び・創造」と「社会的参加」が繋がらない。いくつになっても学習することは大事でやってほしいということが主になる。一人ではできないこともあるので、市民活動をやっていくことが大事ではないのだろうか。

○委員：

成人専門委員会では具体的なグループでの活動などが大事ということを話し合った。

○委員：

「知的好奇心を学びましょう」という表現がいいのではないか。

○事務局：

40頁の成人の重点的取り組みの下位項目にある「健康づくりについて学び、知識を身につけよ

う」を重点的取り組みにし、「社会参加や趣味活動を行うことで、生きる力を育もう」を重点的取り組みから外し、市民行動目標に入れてはどうか。

○委員：

なくすことは問題ないが、重点的取り組みの表現をどう変えるかだろう。

○事務局：

高齢者の閉じこもり予防や認知症を抑制するために積極的な社会参加や趣味活動が大事になると思う。そういう意味では「社会参加や趣味活動を行うことで、生きる力を育もう」を残し、健康づくりプランとして「健康づくりについて学び、正しい知識を身につけよう」を重点的取り組みにしてはどうだろうか。

○会長：

「健康づくりについて学び、正しい知識を身につけよう」ということはわかるが、学び・創造はそれだけではない。一般の学びや学習を推進しており、健康づくりを学ぶわけではない。それを重点的取り組みの標語にするとニュアンスが違うのではないか。どんなことでも生涯にわたって学習意欲を持つことが大事で、健康づくりに集約するとニュアンスが違うと思う。

○事務局：

「社会参加の行動を通じて学ぶこと」なので、「学ぶ」を前面に出すと何をやっていいのかわからないのだと思う。市民の行動目標を考えた場合の参考として例を出している。

○会長：

それならば「生きる力を育もう」はおかしいのではないだろうか。学び・創造は何を目標にするか難しく、わかりづらい。社会参加しなくても学べることはある。

○事務局：

学び・創造の表現は健康都市宣言の「社会参加や市民活動を行うことで、生きる力を育むことにつながります」から流用している。

○会長：

一般市民からすると「学ぶ」を違う意味で受け取る可能性はある。専門委員会ではどのように話し合われたのか。

○委員：

表題的なことはなかったが、具体的な活動があるということで話を進めた。事務局からあったように具体的に参加することが主体であり、学びの概念については話にはなかった。「健康づくりについて」ではなく「健康について学び、正しい知識をつけよう」ということでいいのだろうか。

○会長：

成人に対して、生涯、学び・創造をやっていただきたい、学ぶことが実際の健康づくりになると言っているが、学び・創造は健康に関することだけでなく趣味的なことでもいいのではないか。

○委員：

成人専門委員会では、具体的な活動に参加することで、趣味も得るということなので、健康だけに限ってはいない。

○事務局：

健康都市宣言でも学び・創造の表現は非常に難しかった。概念としては分かるが、表現するとすると難しい。「社会参加や趣味活動を行うことで、生きる力を育もう」は健康都市宣言で使っている文章なので、さらにわかりやすくというのは難しい。解説部分で「趣味を楽しんだりすることを通じ、日々の暮らしにうるおいを持ちましょう」としているところを、例えば「趣味を楽しんだりすることは、脳の活性化につながります」など行動が健康づくりにつながるような言葉に修正して、「学び・創造」という言葉と健康の意味とその行動との関係を説明する文章にしてはどうだろうか。

○会長：

健康都市宣言にもある言葉なので、なかなか変えられない。説明文章を工夫するというところで検討してほしい。

その他 骨子案について

○会長：

その他に重点的取り組みで何かあるか。

○委員：

ページの割り振りについて。健康都市宣言の5つの柱がそれぞれごとに、まとまっていたほうが読みやすいのではないか。読み手からすると、柱ごとにひとまとめになっているものを読みたいのではないか。（※柱ごとに現状（集計結果）、重点目標（取り組み）、成果目標がまとまっている形か、骨子案のようにするか。）

○事務局：

素案のレイアウトにした理由としては、計画書が完成した際に、最後まで読み切る人はなかなかいない。見出しとして、重点的取り組みが一目でわかれば向こう5年間にやるのがわかる。

○委員：

重点的取り組みだけを一枚の紙に表示してはどうか。

○事務局：

概要版を作成し、市民にはそちらを主に見ていただく。構成としては5本柱ごとにし、重点的取り組みがあり、その次にそのほかの取組みがあるとしたい。

○会長：

概要版は重点的取り組みでまとめ、計画書では各項目で一つにまとめるのは難しいのだろうか。

○事務局：（インテージリサーチ）

25頁の重点的取り組みまでであれば、柱ごとに調査結果、取り組み内容を掲載することはできると思うが、実際に作成してみて、見てご確認いただく方法もある。26頁（「健康づくり推進プラン」の総合目標と目標体系）以降も含めて、柱ごとでまとめることは、若干厳しい面がある。

○委員：

11月にパブリックコメントが予定されているが、その間に会議を開くのか、それとも第4回まで何もないのか。構成については市民からの意見を聞いてからでもいいのではないか。

○事務局：

基本的なところは本日の会で決定するが、細かく決めすぎることはできないところもある。パブリックコメントの意見を反映し、変更になる可能性はある。多くの計画においてもパブリックコメント募集時の構成や表現を計画にそのまま反映するよりも、構成などを変えて計画が出来上がることもある。

○会長：

パブリックコメントまでは骨子案で検討し、パブリックコメント募集後に再検討としたい。

「計画書タイトル」、「市民・地域が取り組むこと、行政が取り組むこと」について、事務局より確認

※計画書タイトルについて。骨子では「次期」としているが国や都では「第2次」としていることから、計画書のタイトルを「第2次西東京市健康づくり推進プラン」とする。※パブリックコメントでは「（仮称）第2次西東京市健康づくり推進プラン」とする。

32頁、がんについて。がん検診は種類によっては2年に1回など、毎年でないものもあるので「必ず年1回」を「必ず定期的に年齢に応じた」に変更する。（がん検診について、年齢、実施の目安時期を掲載する案が出されたが、10年の計画において、制度変更の可能性があるため、具体的な掲載は避けることにした。）

36頁、地域の取り組みの「地域でラジオ体操やしゃきしゃき体操などをする機会を作る」について。地域で行う体操とすると漠然とするため「ラジオ体操」としたが、特定の体操を示すことが問題にならないか検討した。「など」としており、問題にはならないと考えられるが、パブリックコメントで指摘等があれば、変更とする。

次回開催予定：12月下旬または年明けを予定。

市民説明会の日程は後日連絡。

閉会